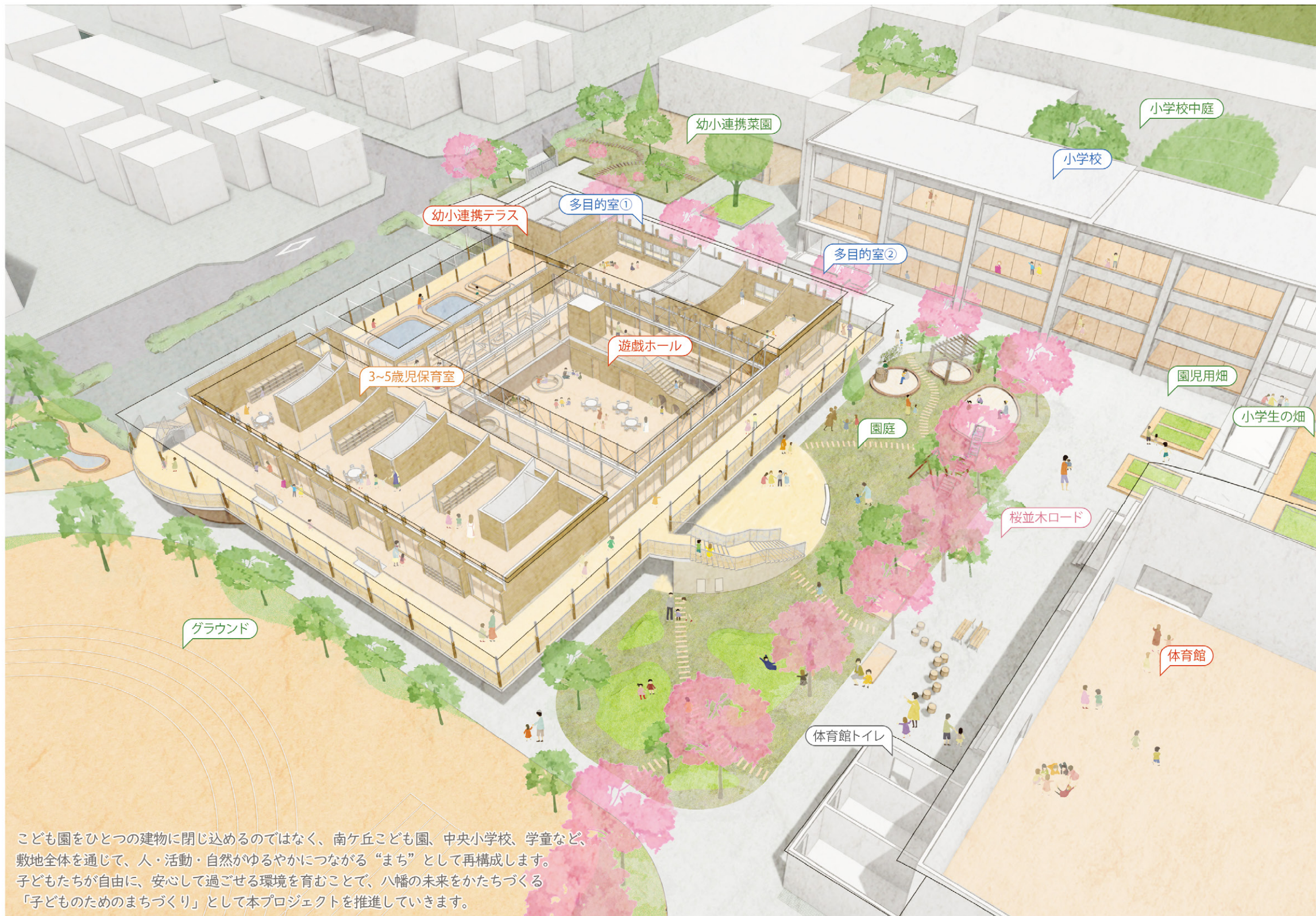


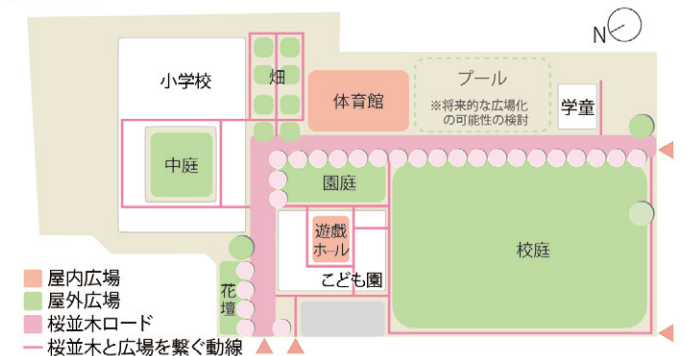
子どもが主役のまちづくり ― 八幡で育む、新しい遊び場・学び場 ―



こども園をひとつの建物に閉じ込めるのではなく、南ヶ丘こども園、中央小学校、学童など、敷地全体を通じて、人・活動・自然がゆるやかにつながる“まち”として再構成します。子どもたちが自由に、安心して過ごせる環境を育むことで、八幡の未来をかたちづくる「子どものためのまちづくり」として本プロジェクトを推進していきます。

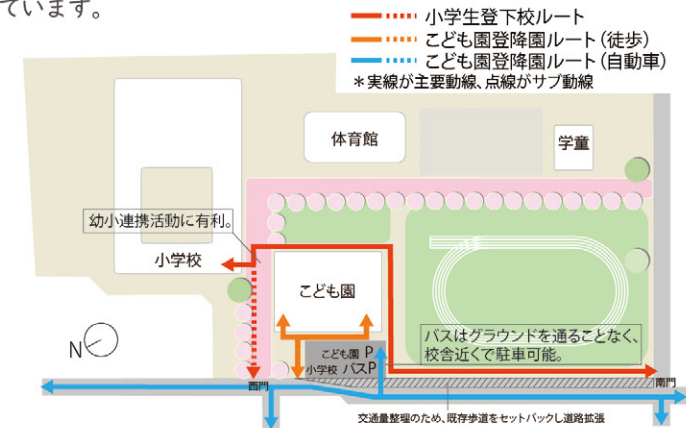
“こどものまち”の公共的骨格整備

本計画は、少子化の影響を受けた2園の統合による、こども園の新たな整備計画です。今後、小学校にも波及が予想される人口動態の変化に備え、用途が変わっても敷地全体が「こどものまち」として機能し続ける骨格づくりが求められます。そこで、敷地を南北に貫く桜並木ロードを軸とし、その沿道に大小さまざまな屋内外の広場を点在させる構成を採用しました。これらの空間は、多目的かつ柔軟に活用できる“公共的な骨格”として整備され、将来の保育・教育・地域利用など多様なニーズに応え、持続的に活用される場を形成します。



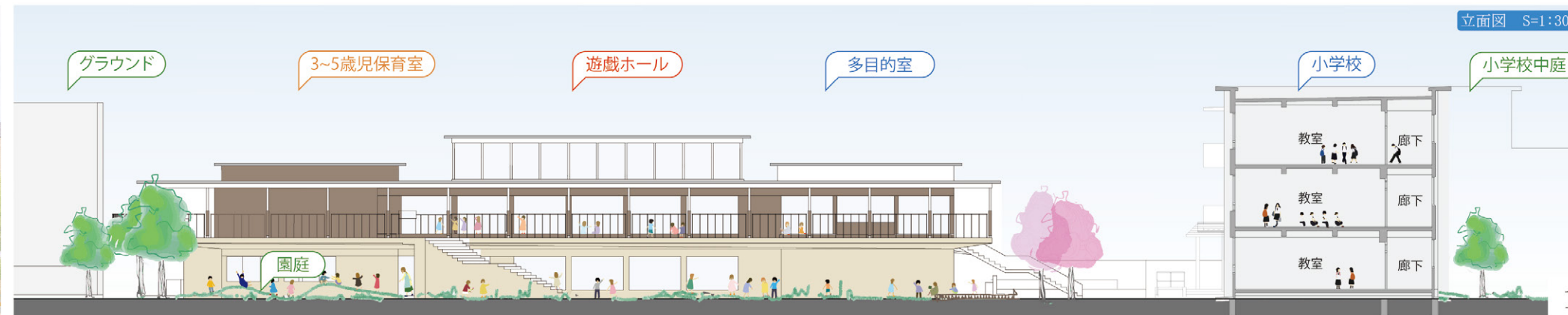
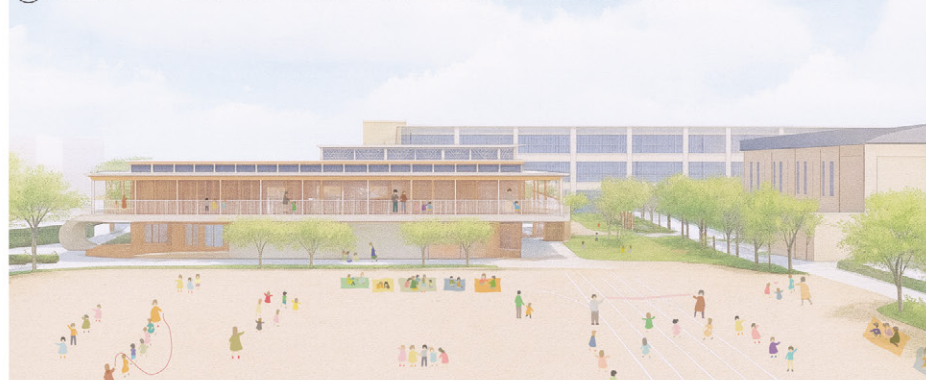
幼少連携を促進する北側配置プラン

園舎は小学校校舎・体育館と近接する敷地北側に配置します。最短の動線で幼小連携が促進され、インフラ面でも合理的、整備・維持管理コストの面でも有利です。また将来の機能変化にも柔軟に対応できる配置です。児童と園児の登下校動線が重なる懸念はありますが、動線計画の工夫により解消できます。児童の主動線は園の東側を通りつつ従来と同距離で整備し、園児は西側に設定。西門利用児童とも動線・出入口を分離し、安全性と心理的距離の両面に配慮しています。



北側案(採用案)
 懸念事項 小学生と園児の登下校動線が被ってしまう。
 と解消法 小学低学年と園児の兄弟がいる場合、園児送迎時に親が近くにいると、低学年の子にとって良くない。
 →7割の小学生が利用する南門からの動線は、従来の総距離と変わらず、途中こども園東側を通るように整備。子ども園の登園動線を西側に設定することで、両者の主動線を明確に分離。3割の西門利用の小学生とも、入口を完全に分離。

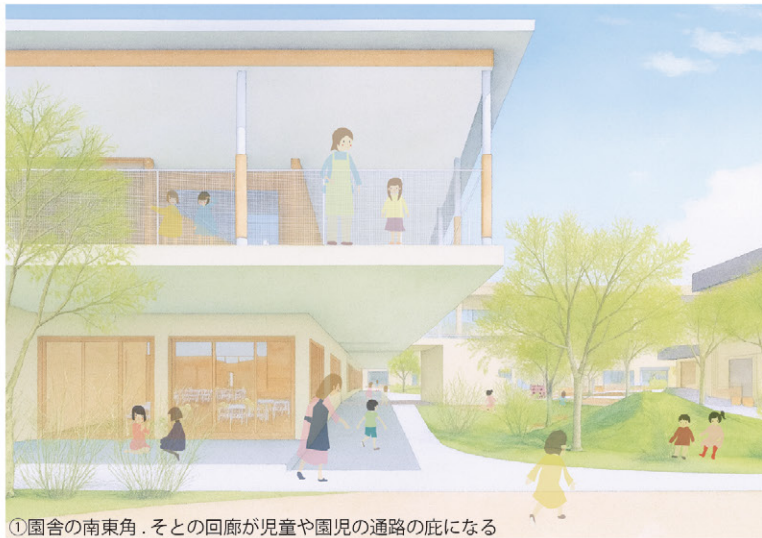
① 校庭側から見た外観。既存小学校、体育館と一体の風景となる。



園児と児童が自然に交わる「こどものまち」の外遊び空間

小学校敷地全体を一体的に活用し、「こどものまち」として再構成。園庭・グラウンド・中庭などを子どもたちが自由に往来できる多様な外遊び空間として整備します。

たとえば、園児が普段の園庭を離れてグラウンドへ散歩に出かける際には、木陰で休んだり遊具で遊んだりしながら、遠足のような体験が可能です。一方で、小学生がグラウンドへ向かう途中に園庭を通り抜けるなど、自然なかたちで園児との関わりが生まれるよう、空間構成と動線計画に配慮します。「こどものまち」の敷地内で動線が完結することで、セキュリティラインが担保され、安全性と自由度の両立を図ります。



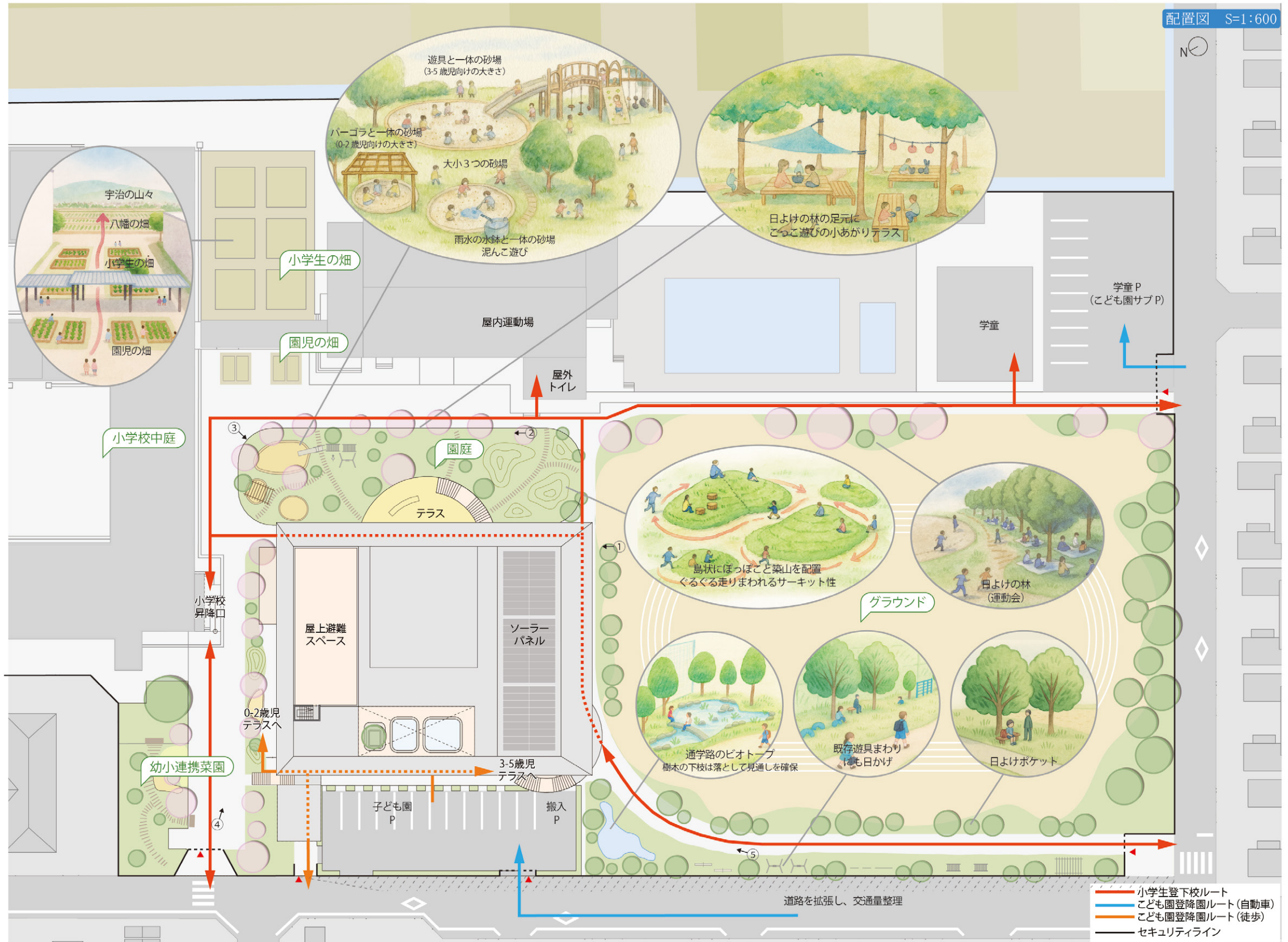
① 園舎の南東角。その回廊が児童や園児の通路の底になる



② 園庭東側の桜並木、通学路、体育館。自然と交流が生まれる場所

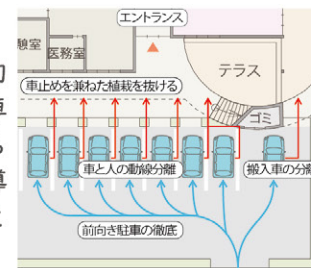


③ 園庭北東角。桜並木ロードから園庭と園舎を望む



車と人の動線を完全分離した、安全かつシンプルな駐車計画

車の進入路と退場路を明確に分離し、車の流れを一方に統制。前向き駐車をルールとして徹底することで、視認性と安全性を向上させます。さらに、各駐車区画には等間隔で植栽を配置し、車止めの機能と視覚的な区切りを担保するとともに、植栽の間からこども園回廊への直接アクセスを可能にし、人の動線を安全に導きます。この計画により、車両動線と歩行者動線が一切交わることのない、安心・安全な利用環境を実現します。



④ 西門から登校する小学校児童

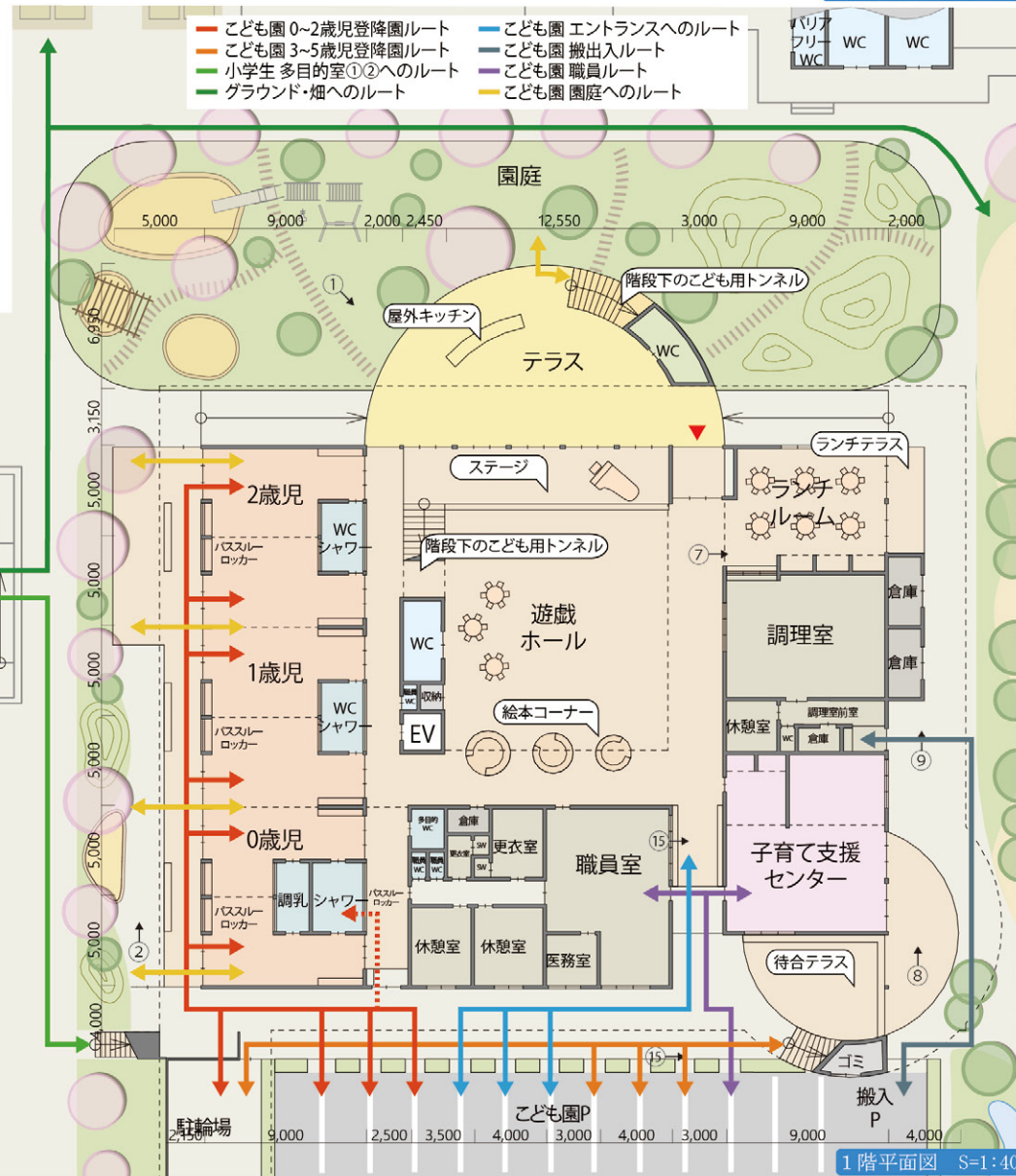


⑤ グラウンド西側に整備する通学路

遊戯ホールを中心に内外に二重回廊をめぐらせた「口の字型」平面構成を採用します。空間を閉じることなく、明確なゾーニングと機能的なつながり、空間の可変性を両立させます。「うちの回廊」には絵本コーナーや家型の秘密基地など保育室の枠を超えた多彩な遊び場を設け、2階の「そとの回廊」はテラス、園庭へとつながる屋外空間です。子どもが自由に行き来し、自身のペースで居場所を見つけられる環境を叶えます。この構成は、ワークショップやインタビューで寄せられる多様な保育ニーズに柔軟に対応でき、園児数の変動や保育内容の変化にも対応可能な、将来を見据えた設計です。



プールは、3～5歳児の保育室に隣接した屋外テラスに設置します。夏季の水遊びはもちろん、水を抜いた状態では、園児や児童が自然に集まる「たまり場」としても活用でき、日常的な幼小連携のきっかけとなる空間を創出します。プールは車道側に面しているため、回廊の列柱間にカーテンや簾を設置できる構成とし、必要に応じた目隠しが可能な計画としています。





やわらかな船底天井と可動間仕切りによる大らかな2階の保育室。



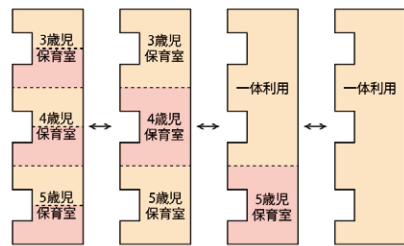
吹抜けの遊戯ホールを2階から見下ろす。



遊戯ホール1階・大スパンを飛ばせる張弦梁が無柱空間を実現。

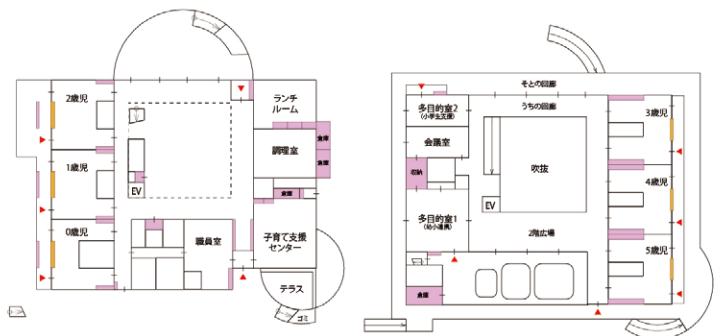
可動間仕切で柔軟に対応する保育室

1階の0・1・2歳児保育室、2階の3・4・5歳児保育室は可動間仕切り壁で分節・一体利用が可能です。行事や地域開放、将来の保育形態の変化にも柔軟に対応できる、使いながら育つ園舎です。



適材適所、近くて便利な収納計画

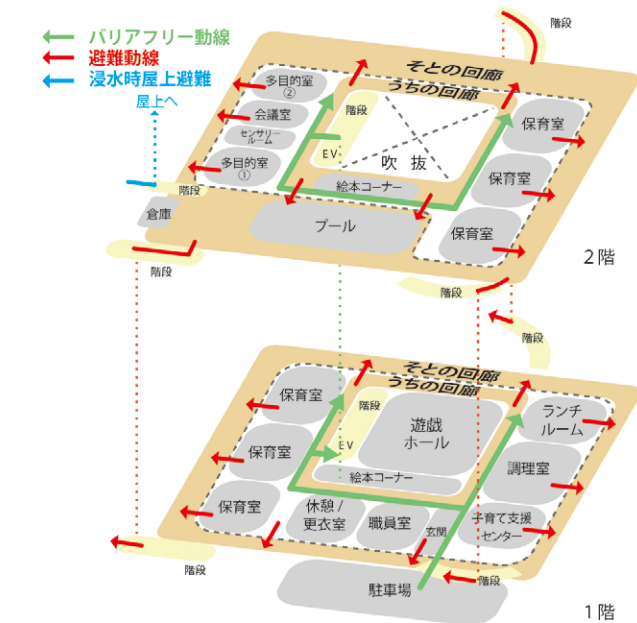
保育室、多目的室、調理室など部屋ごとに収納を設け、モノを使う場所と仕舞う場所を近接。出し入れが容易、部屋が常に整頓され、不要なモノが可視化されます。ワークショップで必要な収納を細かくヒアリングします。



バリアフリーで明快な避難計画

主要動線「うちの回廊」は段差のないバリアフリー構成で保育士の目が届きます。避難時は「そとの回廊」から直ぐに外に出られ、2階→屋外階段→園庭→体育館へと段階的に行き、安全性を高めています。日常的に使い慣れた動線が非常時は避難動線になります。

そとの回廊...「まず直ぐに外に出る」避難動線
うちの回廊...保育士の管理のしやすさと、集約したバリアフリー動線



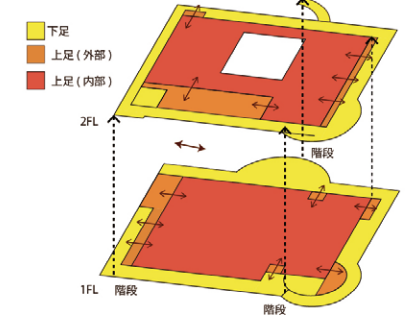
森と学びの循環 地産材と育つ園舎

木材は京都府産材を使用。日常的に木の温もりに触れる、地域の森と子どもをつなぐ建築とします。設計段階で木育ワークショップを行い、森→建築→学び→更新という循環を築きます。チームの一員である木材アドバイザーは地場材の採用手続きに加え、運用後の木育活動の継続を支援します。



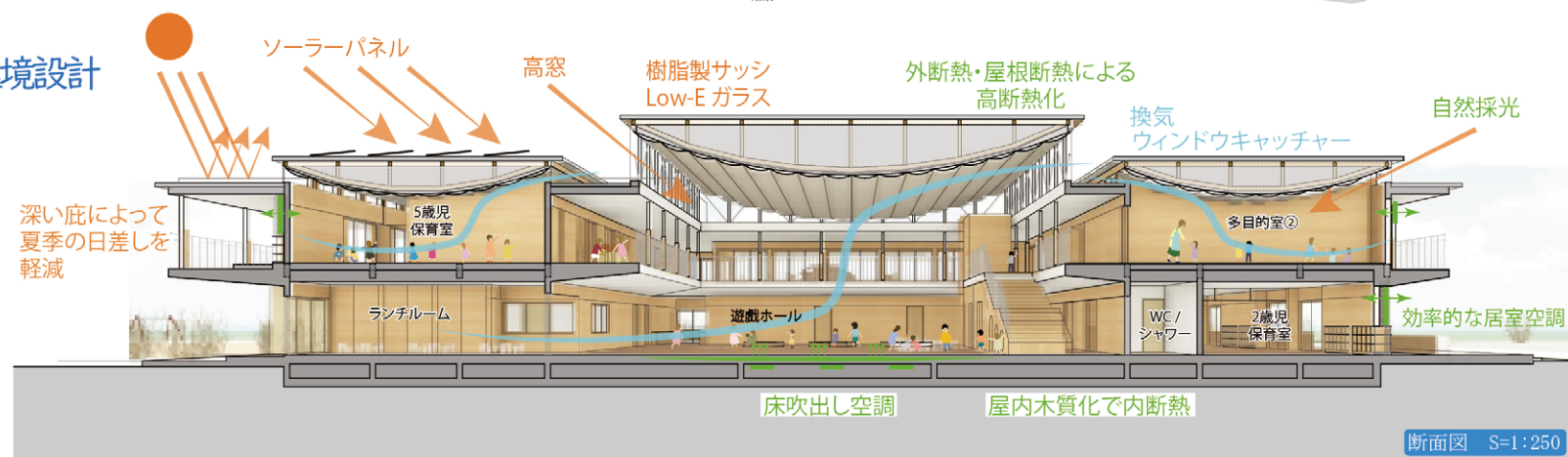
使い慣れたテラスインの上下足計画

既存園を踏襲し、保育室にテラスインできる上下足の計画としました。園庭を立体的に使えるよう、2階テラスまで下足で上がることができます。感染症など非常時には別途設ける玄関で対応します。



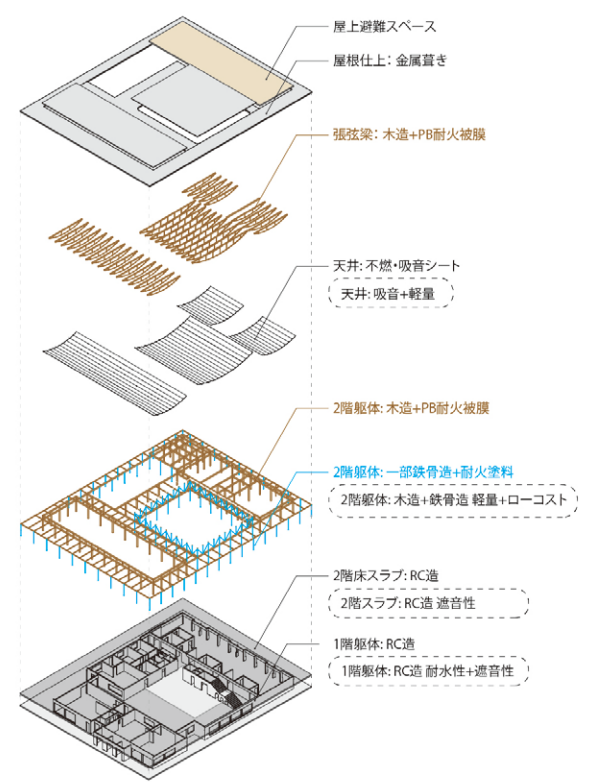
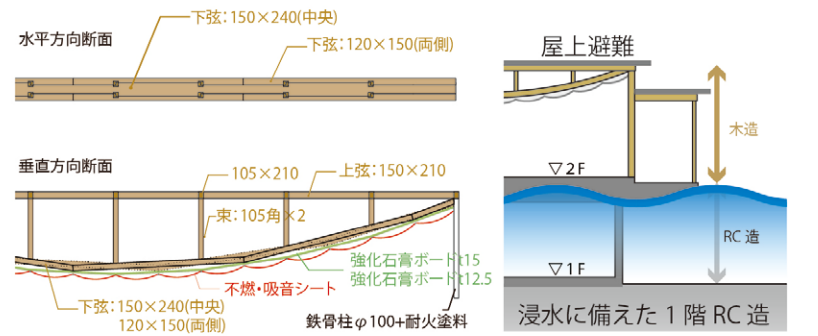
ハイサイドライトとZEB Readyの環境設計

高窓と庇で拡散光を取り込みながら、直接日射は抑えます。高窓は夜間に換気窓としても機能し、CO₂センサー連動で自動的に開閉。自然換気と高断熱外皮、太陽光発電を組み合わせることで、ZEB Ready相当の省エネルギー性能を実現します。子どもたちが光や風の変化を感じながら過ごせる、体感的な環境教育の場にもなります。



安全・コストに応えるハイブリッド構造と船底天井

計画地は木津川流域に位置し、浸水想定区域に含まれるため、1階を強固なRC造、2階を木造として、地盤条件に応じた耐震性と軽量化を両立させます。木造部分の軽量化で、地震時の負担と基礎コストを抑えています。空間を有効に使えるよう大スパンを飛ばせる張弦梁を採用。不燃吸音シートを天井に取り付け、柔らかくて親しみやすい空間になります。



設計チーム

建築(総合)@京都 **とりまとめ** 京都市内に事務所を構える強みを生かし、窓口を一元化し、シンプルな組織構成。

管理技術者 (一級建築士)
全体統括および各担当技術者との調整を担い、ワンストップで業務を進行。説明責任や情報共有にも積極的に取り組む。

建築(総合)担当者 (一級建築士)
複数のこども園をはじめ、多様な規模・用途の建築設計・監理に携わってきた経験を有し、幅広い要望に柔軟に対応する提案力を備える。

外構(ランドスケープ)担当者 (登録ランドスケープアーキテクト補)
同一敷地内に小学校・学童・こども園が共存するため、各建物をつなぐ外構計画は重要な役割を担う。多様な実績に加え、ワークショップなどを通じた豊富なコミュニケーション経験を持つ外構(ランドスケープ)担当者を自主的に設置。

専門家(協力事務所) 公共建築をはじめ、多様な建築設計を長年協働してきた実績を持つ事務所です。

建築(構造)技術者 (構造設計一級建築士)
保育施設や公共建築の経験を活かし、安全性と柔軟性を備えた構造計画を提案。現場の声も反映しながら、将来の使い方の変化にも対応。

電気設備担当者 (建築設備士)
教育・保育施設建築の経験を活かし、省エネ・防災・ICTを統合した計画を提案。照明や電源計画等、子どもたちの使い易さと安全性に配慮しZEBにも対応。

機械設備担当者 (建築設備士)
給排水・空調・厨房など幅広い設備に対応。WS等を通じた丁寧なヒアリングを重視し、衛生性・清掃性・使い勝手に配慮した提案が可能。

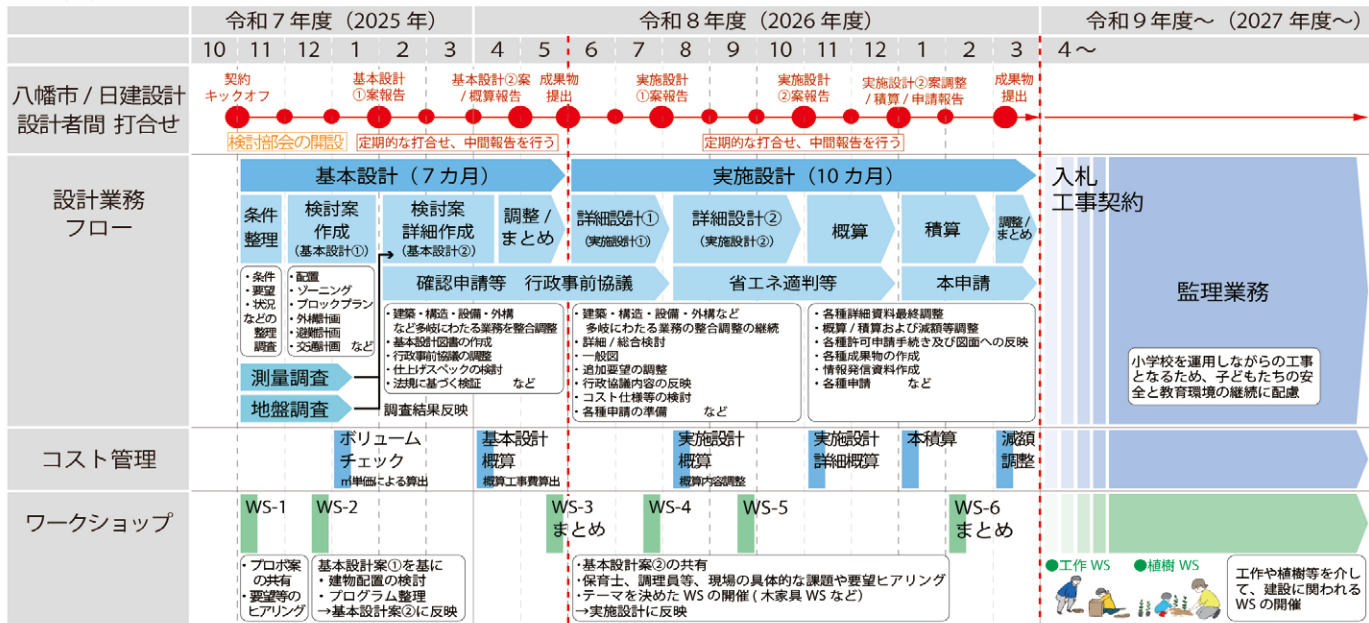
コスト管理担当者 (積算建築士)
設計初期から精度の高い概算とコスト調整を担い、CM方式に対応した設計調整やライフサイクルコストも見据えた提案が可能。

木材活用アドバイザー (一級建築士)
地域材を活用した公共木造施設の建設事業を総合的にプロデュースし、森林所有者へ森林資源の持続的活用を提案する。

こども園計画アドバイザー (学識経験者)
こどもや高齢者、障害をもつ人々への環境によるサポートや、都市空間における人々の行動特性などについて大学教授として研究し、指導を行う。

- ・ホールを中心に、諸室を展開する平面構成
- ・建物内外に2重の回廊を設け、子どもたちが歩き回ること、自由な遊びの発想を促し、子どもの主体性を育む空間を創出
- ・地場産材を積極的に活用し、地域に根ざした木の温もりに触れられる環境を実現

設計業務を着実に進めるため、フロントローディング手法を取り入れ、基本設計段階から設計内容・コスト・整合性を先行的に検討します。設計者・CM・発注者による継続的な打合せ体制のもと、初期段階から客観的な視点を取り入れることで検討の精度を高め、後工程での手戻りを防ぎ、スムーズな進行を実現します。



基本設計 (7カ月)

実施設計 (10カ月)

条件整理 基本設計① 基本設計② 調整/まとめ 実施設計① 実施設計② 概算 積算 調整/まとめ

コスト上昇

水準

概算1
ボリュームチェック
市単価による算出

概算2
概算工事費算出

減額調整

協力事務所と連携し、建築・構造・設備・外構等を
細分化して目標コストを設定し上昇を抑える

概算3

詳細概算4

本予算

減額調整

入札

不測の事態に備え、水準より余裕のあるコストを目指す

八幡市/日建設計/計者間 打合せ CMとの密な協議を通じて予算整合を図る

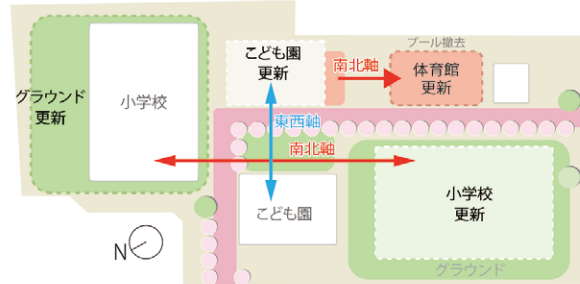
設計工程

設計初期の段階から、建築・構造・設備・外構等の主要項目を細分化し、過去の類似事例に基づく実績単価を適用して概算を行います。空間構成が確定しきっていない段階でも、ゾーン別・部位別に積算骨格を早期に構築することで、設計と連動した現実的なコスト把握が可能となります。コスト影響の大きい項目については、重点的にQ&Mとの協議を通して複数案を比較・検討し、発注者と共有のうえで選定を進めます。また、基本設計・実施設計の両段階において2段階のプロセスを設けることで、計画の進行にあわせて最適解を段階的に導出します。

設計各段階の成果物に応じて、構成要素別にコストを定期的に更新・比較し、発注者およびCMとの協議を通じて予算整合を図ります。とくに基本設計から実施設計にかけては、仕様・数量の確定にあわせて見積精度を高め、設計変更や仕様調整を必要に応じてフィードバック。こうしたPDCA型のモニタリングを通じて、コスト超過リスクの早期把握と是正判断を可能にし、不測の事態にも備えた、標準よりも余裕のあるコスト水準を確保します。

検討部会を開設し、現場の声を設計初期段階から反映可能な体制を整えます。また、設計の進行に合わせてワークショップを継続的に開催し、関係者のみならず地域の皆様とも丁寧な対話を重ねます。模型やCGなどを活用した検討に加え、工作や植樹といった参加型のワークショップも行い、関係者が実際に協働しながら「みんなでこども園・ハ幡のみらいをつくる」プロセスを大切にします。

工事期間中は、西側から工事車両を出入りさせ、児童は学童側の南門を通じて登下校することで、両者の動線を明確に分離し、安全を確保します。また、騒音の大きい躯体工事等は、大型連休を活用した工程とすることで、学校活動への影響を最小限に抑えます。

[illegible]

面積表				
1F			2F	
室名	面積[m ²]	室数	室名	面積[m ²]
保育室(0歳児)	35.00	2	保育室(3歳児)	40.00
調乳室	8.00	1	保育室(4歳児)	40.00
保育室(1歳児)	40.00	2	保育室(5歳児)	40.00
保育室(2歳児)	40.00	2	多目的室①	81.00
遊戯ホール	222.50	1	収納	13.50
職員室	61.00	1	多目的室②	40.59
医務室	9.00	1	WC(多目的室②)	1.55
調理室	63.00	1	絵本コーナー	39.34
調理室前室	12.81	1	WC/シャワー室(3歳児)	8.00
調理員休憩室	9.00	1	WC/シャワー室(4歳児)	10.00
調理員WC	1.48	1	WC/シャワー室(5歳児)	10.00
調理室倉庫	3.75	1	職員用WC	2.00
ランチルーム	61.33	1	多目的WC	4.03
子育て支援センター	90.00	1	会議室	40.59
シャワー室(沐浴室)	12.00	1	プール	127.50
WC/シャワー室(1歳児)	10.00	1	シャワー室(屋根付テラス)	12.00
WC/シャワー室(2歳児)	10.00	1	倉庫(屋根付テラス)	12.79
WC/シャワー室(2歳児)	10.00	1	WC(屋根付テラス用)	1.66
職員用WC	1.60	2	センサリールーム	14.00
職員WC	1.52	1	周辺施設	
職員用シャワー室	1.25	2	駐車場	12(台)
多目的WC	4.80	1	駐輪スペース	14.92
更衣室(男性)	3.75	1	ゴミ置場	6.72
更衣室(女性)	12.00	1	園庭(テラス,含む)	719.25
休憩室	15.79	1	園庭(乳児用)	67.40
休憩室	18.50	1	園庭倉庫	8.00
倉庫	3.75	1	園庭WC	9.07
収納	10.69	1	延床面積 2119 ㎡	
収納	2.16	1		

5